

本のまくらリスト

書き出し	タイトル	著者名	資料番号
一九六八年に東京の北多摩に生まれた橋本響一は二十六歳の時に神を影像に収めることに成功した。	13	古川日出男 // 著	102451358
たった二十六文字で関係のすべてを描ける言語がある。	A2Z	山田詠美 // 著	104017785
目覚めたとき、元の世界にいるとは限らない。	CANDY	鯨統一郎 // 著	103287280
全ての可能な文字列。全ての本はその中に含まれている。	Self-Reference ENGINE	円城塔 // 著	105562557
間に合ってます。	あなたにもできる悪いこと	平安寿子 // 著	104436039
ストラウトはかせわぼくが考えたことや思いだしたことやこれからぼくのまわりでおこしたことやぜんぶかいておきなさいといった。	アルジャーノンに花束を	ダニエル・キイス // 著	102011673
幸せな家庭はどれもみな同じようにみえるが、不幸な家庭にはそれぞれの不幸の形がある。	アンナ・カレーニナ 1	トルストイ // 著	103571527
長く伸びている姉の髪にからまってしまったことがある。	いとしい	川上弘美 // 著	104003934
嫌いな言葉のひとつに、境界線、っていうのがある。	インディペンデンス・デイ	原田マハ // 著	103640249
人生でもっとも大切なのは、何についてであれ、あらかじめ判断を下しておくことだ。	うたかたの日々	ヴィアン // 著	105542328
あのころはいつもお祭りだった	美しい夏	バヴェーゼ // 作	103514642
貴方の前に出ると何時も私は妙にぎこちないのです。	エミリー	岳本野ばら // 著	103294880
父の口ぐせのひとつに、「柿なぞ買って食べるものではない」というものがある。	お父さんと伊藤さん	中澤 日菜子 // 著	105408314
一つだけ、確かなことがありました。白いほうの子ねこには、かわりがなかったということです。	鏡の国のアリス	ルース・キャロル // 著	101123016
どっどど だうだう だうだう だうだう	風の又三郎	宮沢賢治 // 著	105365571
「片腕を一晩お貸してもいいわ。」と娘は言った。	片腕	川端康成 // 著	103507596
私の母は一月に旅行の計画を立てはじめた。	家庭の医学	レベッカ・ブラウン // 著	103495800
ものうさと甘さとがつきまどって離れないこの見知らぬ感情に、悲しみという重々しい、りっぱな名をつけようか、私は迷う。	悲しみよこんにちは	サガン // 著	102000882
「おい、地獄さ行ぐんだで！」	蟹工船	小林多喜二 // 著	103567590
ぽつん、としている。	キリハラキリコ	紺野キリフキ // 著	103508669
肌身につける衣類を衣服というのなら、私にとって、記憶にある最初の服はオシメである。	着る女	筒井ともみ // 著	104476445
山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通とおせば窮屈きゆうくつだ。とかくに人の世は住みにくい。	草枕	夏目漱石 // 著	101262707
ぼくがまだ年若く、いまよりもっと傷つきやすい心を持っていた時分に、父がある忠告を与えてくれたけど、爾来ぼくは、その忠告を、心の中でくりかえし反芻してきた。	グレート・ギャツビー	スコット・フィッツジェラルド // 著	101256790
独身の青年で莫大な財産があるといえば、これはもうぜひと妻が必要だというのが、おしなべて世間の認める真実である。	高慢と偏見 上	オーステイン // 著	105551147
山椒魚は悲しんだ。	山椒魚	井伏鱒二 // 著	105560981
私たちはそれぞれ、自分だけのオーステインをもっている。	ジェイン・オーステインの読書会	カレン・ジョイ・ファウラー // 著	103491197
三週間ほど前から、わたしは奇妙な日記をつけ始めた。	シュガータイム	小川洋子 // 著	101738524
水が笑う、とあの本にあった。	水晶萬年筆	吉田篤弘 // 著	103675336
アテナイのみなさん、皆さんが私の告発者たちによってどんな目にあわれたか、私は知りません。	ソクラテスの弁明	プラトン // 著	105600480
求ム 天然理科少年	天然理科少年	長野まゆみ // 著	104132196
ひっそり、のんびりといきたい。	という、はなし	吉田篤弘 // 文	103491924
いつでも北に逃げたい。私は。	逃北	能町みね子 // 著	105625057
何よりもまず名前があ行ではじまる人々に それから、か行で、さ行で以下同文 そしてまた、名前が母音ではじまる人々に。それからbで、cで以下同文。	道化師の蝶	円城塔 // 著	105562318
トタンがセンベイ食べて春の日の夕暮は穏やかです。	中原中也詩集	中原中也 // 著	101132397
いま、こうしてわたしの生活が西瓜糖の世界で過ぎてゆくように、かつて人々は西瓜糖の世界でいろいろなことをしたのだった。	西瓜糖の日々	リチャード・フロアティン // 著	101771756
…とどこできみは鳩について考えたことがあるだろうか？	ねじの回転	恩田陸 // 著	103305884
おいらのことなんか、みんな、知らねえだろうな。「トム・ソーヤの冒険」って本を読んだんじゃねえかぎりは。	ハックルベリー・フィンの冒険 上	トウエイン // 著	105692230

書き出し	タイトル	著者名	資料番号
ここは誰の家？ここでは、誰の夜が光をさえぎっているの？	ホーム	トニ モリスン // 著	105414213
夢を見た。逃げる夢だ。	ホームタウン	小路幸也 // 著	103443198
小さなわたしの大きな秘密	ぼろぼろドール	豊島ミホ // 著	103540894
語り手による紹介 自分、色 そして本泥棒について。	本泥棒	マークス・スーザック // 著	103542387
朝から話をはじめよう。すべてよき物語は朝の薄明の中から出現するものだから。	マシマス・ギリの失脚	池沢夏樹 // 著	102291002
「飛行機で眠るのは難しい。そう思いませんか、お嬢さん？」	まぶた	小川洋子 // 著	103243416
わたくしといふ現象はかていされた有機交流伝統のひとつの青い照明です。	宮沢賢二詩集	宮沢賢二 // 著	103434056
それは人類がはじめて月を歩いた夏だった。	ムーン・パレス	ポール・オースター // 著	102229572
さきほどから、ソファーに並んで腰掛けて、妻とわたしが壁に向かって、巖のようにおし黙っているのは、なにも夫婦揃って座禅修行をしているのではない、金が無いから黙っているのである。	夫婦茶碗	町田康 // 著	102450392
恋の始まりのときは楽しい。	もしもし、運命の人ですか。	穂村弘 // 著	103528071
とても現実的にはありえないようなこと、それをこれから書こうと思っている。	モルグ街の殺人事件	E.A.ポー // 作	102729571
夕暮れの黄金の光の中で、飛行機の下につらなる丘にはすでに長い陰影が彫り込まれていた。	夜間飛行	サン＝テグジュペリ // 著	103665758
新しい季節は、いつだって雨が連れてくる。	ユージニア	恩田陸 // 著	103407094
土手に群生しているのは彼岸花だ。	ゆらゆら橋から	池永陽 // 著	104047501
かれは年をとっていた。メキシコ湾流に小舟を浮かべ、ひとりで魚をとって日をおくっていたが、一匹も釣れない日が八十四日も続い	老人と海	アーネスト・ヘミングウェイ // 著	102395209
——あなたの歯が生まれつきとことん健康であることはとてもよくわかりましたし面接はこれくらいなものですが、ねえ、そんなに必死に歯がいたいあなたのなんであるの？	わたくし率イン歯一、または世界	川上未映子 // 著	103557336
私は一人間の中にいて、頭の中で世界をこねくり回しながら、今夜も不眠症をくりげようとしてあがいている。	闇の中の男	ポール オースター // 著	105692073
きょう、ママンが死んだ。	異邦人	アルベール・カミュ // 著	102000890
百子は、あんまり愛しすぎている、とよく思うことがあった。	永すぎた春	三島由紀夫 // 著	101244226
一羽の赤い鳥を飼っていた。	何もかも憂鬱な夜に	中村文則 // 著	104675939
泰平ムードという言葉があります。言葉だけでなく、じっさい、そういうムードがあるらしい。	快樂主義の哲学	渋沢竜彦 // 著	102643657
海辺は、本を読んだり、ものを書いたり、考えごとをするのに、決して適当な場所ではない。	海からの贈りもの	アン・モロウ・リンドバーグ // 著	102306834
一八六六年は奇妙な事件のあった年だ。	海底二万マイル	ベルヌ // 作	106005366
ふしぎなことです！わたしは、なにかに深く心を動かされているときには、まるで両手と舌とが、わたしのからだにしばりつけられているような気持ちになるのです。	絵のない絵本	アンデルセン // 著	105218200
映画の世界で仕事をするには、声に出して物語るのが上手なほうがいい。	鑑定士と顔のない依頼人	ジュゼッペ・トルナトーレ // 著	105676225
今のところまだ何でもない彼は何もしていない。	虚人たち	筒井康隆 // 著	100472208
許して、ぼくはこれより大きな声ではしゃべれない。	鏡のなかの鏡 迷宮	ミヒヤエル・エンデ // 著	101195592
わたしがいまの自分になったのは、一九七五年、十二歳の、ひどく寒いどんよりと曇った日のことだ。	君のためなら千回でも上	カーレド・ホッセイニ // 著	103554986
むかしの、むかしのはなしではありません。みらいの、みらいのはなしです。	月の上のつよがりロボット	古田足日 // 作	102652930
いずれの御時にも男女の仲はややこしい。	源氏物語を知っていますか	阿刀田高 // 著	105620405
愛は祈りだ。僕は祈る。	好き好き大好き超愛してる。	舞城王太郎 // 著	103378287
僕の場合、小さい頃から「散らかしの神」に支配されていた。	工作少年の日々	森博嗣 // 著	104241971
八月のある日、男が一人、行方不明になった。	砂の女	安部公房 // [著]	100357219
昨日、心当たりのある風が吹いていた。以前にも出会ったことのある風だった。	昨日	アゴタ・クリストフ // 著	102788122
不思議なことに、不運は得てして幸運に変わり、幸運は得てして不運に変わる。	仕事は楽しいかね？ [1]	テイル・ドールテン // 著	104213533
幸福という名の家具はどこに置いたらいいのでしょうか？	寺山修司青春作品集 6	寺山修司 // 著	101218931
朝、食堂でスープを一さじ、ずっと吸ってお母さまが、「あ」と幽かな叫び声をお挙げになった。	斜陽	太宰治 // 著	101245553
ひと思いに出かけてしまってほんとによかったと思っている。	若きウェルテルの悩み	ゲーテ // 著	101123727

書き出し	タイトル	著者名	資料番号
人間の体は新品ではありえない。必ず中古品である。	祝!中古良品	赤瀬川原平 // 著	103500567
「ホーネン! ホーネン!」	色即ぜねれいしよん	みうらじゅん // 著	103376794
お母さんはそんなひとたちが来るなんてこと、おくびにも出さなかった。	真珠の耳飾りの少女	トレイシー・シュヴァリエ // 著	102536687
くまにさそわれて散歩に出る。	神様	川上弘美 // 著	102820651
窓の話をしよう。	世界はうつくいと	長田弘 // 著	103596912
一九九九年に自分が何歳になっているか、ということの子供の頃に考えた。	世界音痴	穂村弘 // 著	103297503
青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。	青春とは、心の若さである。	サムエル・ウルマン // 著	105210421
諸君のうちで宿題の好きな人がいるだろうか。	船乗りクブクの冒険	北杜夫 // 著	104540281
こんばんは。あるいはおはよう。もしくはこんにちは。	想像ラジオ	いとうせいこう // 著	105629943
映画で見たことはあるが、まさか自分が崖から転落し、逆さまの車内に閉じこめられるとは思わなかった。	他人事	平山夢明 // 著	103553194
厳密に言えば、太陽は燃えているわけではない。	太陽・惑星	上田 岳弘 // 著	105714224
あなたは、袋小路に住んでいる。	袋小路の男	糸山秋子 // 著	102525755
鮎屋へ行ったときはシャリだなんて言わないで普通に「ゴハン」と言えばいいんですよ。	男の作法	池波正太郎 // 著	105151344
庭をもつ人にとって、今はいろいろと春の仕事のことを考えなくてはならない時期である。	庭仕事の愉しみ	ヘルマン・ヘッセ // 著	102580917
信じがたいと思われるでしょう。信じるということが現代人にとっていかに困難なことかということは、わたしもよく知っています。	天の夕顔	中河与一 // 著	105341929
男が心に秘めた思いを口にするのは恥ずべきことだという人がいる。	天使の首飾り	リチャード・P.エヴァンズ // 著	103241824
「最初の機会で恋を感じないなら、恋というものはないだろう」と言ったのは、イギリスの劇作家マーローだ。	天使の卵	村山由佳 // 著	102298254
わたしは石を愛する。	島暮らしの記録	トーマス・ヤンソン // 文	102645629
気がついたとき、熊は頭をおさえてすわっていた。	頭のうしろところが悪かった熊の話	安東みきえ // 作	103721189
それぞれの世界で、それなりの成功をおさめた人々は、才能はもちろん、その底に、必ずいい意味での鈍感力を秘めているので	鈍感力	渡辺淳一 // 著	103528105
日本ははじめ、サムライとハラキリ、フジヤマとゲイシャで有名になった。	日本人養成講座	三島由紀夫 // 著	104540703
次の仕事が決まった。ラブレター、である。	猫を拾いに	川上弘美 // 著	105668453
私の恋人が逆進化している。	燃えるスカートの少女	エイミー・ベンダー // 著	103352712
夢であることは初めからあらかたわかっていた。	巴里茫々	北杜夫 // 著	105558076
台風には勝てない。——というか、勝とうとしてはいけない。	八月の六日間	北村 薫 // 著	105689376
なんでも、奇妙きてれつな事件が起こったそうであります。	鼻/外套/査察官	ゴーゴリ // 著	105068647
四月八日 誰よりも大切なワルワーラさん 昨日、私は幸せでした。	貧しき人々	ドストエフスキー // 著	103649513
これは山の日記です。	富士日記 上	武田百合子 // 著	102142031
「完璧な文章などといったものは存在しない。完璧な絶望が存在しないようにね。」	風の歌を聴け	村上春樹 // 著	100346162
たちの悪いいたずらはなさらなくて下さいませよ、	眠れる美女	川端康成 // 著	103570438
そのサーカスはいきなりやってくる。	夜のサーカス	エリン・モーゲンスタイン // 著	105580385
月が出ていた。丸く、丸く、妙に艶めいて見える月だ。	弥勒の月	あさのあつこ // 著	103489530
「次は鳥子ちゃん、あなたが死ぬ番よ」	夕方らせん	銀色夏生 // 著	102569092
半年前から、玄関で寝ている。	流れ星が消えないうちに	橋本紡 // 著	103489605
拝啓 お手紙ありがとうございます。研究室の皆さん、お元気のようですねにより。	恋文の技術	森見登美彦 // 著	103592259
えたいの知れない不吉な塊が私の心を始終圧えつけていた。	檸檬	梶井基次郎 // 著	103610309